

万葉蹴鞠カップ実施要項

〔万葉蹴鞠〕

日本サッカーのルーツとされる蹴鞠は、日本書紀の記述によると西暦644年奈良県飛鳥の地で行われていた。奈良21世紀フォーラムでは日本書紀記述の「打毬」を2002年日韓ワールドカップを記念し、万葉蹴鞠として推定復元した。

- 1.主 旨 サッカー好きが集い、よみがえった万葉蹴鞠の競技を通し日本サッカーの源流奈良を発信する。
- 2.主 催 特定非営利活動法人 奈良21世紀フォーラム
- 3.共 催 春日大社
- 4.後 援 奈良県、奈良市、(一財)奈良県ビジターズビューロー、
(公社)奈良市観光協会、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送(株)、
(株)奈良新聞社
- 5.協 力 天理大学雅楽部
- 6.日 時 平成30年6月24日(日) 午前11時 会場集合
- 7.会 場 春日大社境内飛火野
- 8.参加方法 6名を1チームとする。
- 9.競技方法等

「万葉蹴鞠カップ」競技方法

1 優勝の決め方

- ① ラリー数の多いチームを優勝とする
- ② 予選トーナメント：参加チームを4ブロックに分け、ブロック1位を決定する
- ③ 決勝大会：ブロック1位チームが同時にゲームを行ない、優勝チームを決定する
- ④ 優勝チームには「万葉蹴鞠カップ」を授与する

2 ゲームの進め方

- ① チームは6人で構成し、ゲーム時は3人ずつ左右のコートに入る
- ② ゲームはボレーキックによるサーブで始める
- ③ ボールを受ける側はボールをグラウンドに落とすことなく、必ず1本または2本のパスの後、反対側のコートにボールを送る(これを「ラリー」と呼ぶ)
- ④ パスすることなしにラリーすることはできない
- ⑤ ボールコントロールのためのボールタッチ数に制限はない
- ⑥ ボールをグラウンドに落とす、3本以上パスをするなどプレーに失敗したときは、サーブから再開する。ラリー数は通算する

- ⑦ ラリー数にサーブを含めない
- ⑧ ゲーム時間は、予選トーナメント2分、決勝大会4分とする。

簡易版

「万葉蹴鞠カップ」の楽しみ方

- 1 1チーム6人が3人ずつ左右のコートに入る
- 2 左右コート間のパス回数（ラリー数）で競争する
 - ①ラリー数にサーブを含めない ②ゲーム時間は予選トーナメント2分、決勝大会4分
- 3 ゲームはボレーキックサーブで開始する
- 4 ボールを受ける側はボールをグラウンドに落とすことなく、必ず1本または2本のパスの後、反対側のコートにボールを送る（ボールコントロールのためのボールタッチ数に制限はない）
- 5 次のプレーはミスプレーとし、サーブからプレーを再開する、ラリー数は通算する
 - ①パスすることなしにラリーする、または、3本以上パスをする
 - ②ボールをグラウンドに落とす